



- 1 所在地 新潟県北蒲原郡中条町大字船戸字藏ノ坪
2 調査期間 一九九九年度試掘調査 一九九九年（平11）
3 発掘機関 新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
4 調査担当者 霜鳥正道
5 遺跡の種類 集落跡
6 遺跡の年代 奈良時代・平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
○・五mの尾根先端部に位置し、その西側一帯は胎内川の扇状地で広く水田地帯が広がる。近世に塩津潟と呼ばれた潟湖の東縁から約一・三km東側で、丘陵部に

- 二二〇〇〇年度調査 二〇〇〇年四月一月
二二〇〇〇〇年四月一月
3 新潟県教育委員会・財新潟県埋蔵文化財調査事業団
4 霜鳥正道
5 集落跡
6 奈良時代・平安時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
○・五mの尾根先端部に位置し、その西側一帯は胎内川の扇状地で広く水田地帯が広がる。近世に塩津潟と呼ばれた潟湖の東縁から約一・三km東側で、丘陵部に

近い。潟湖の西には砂丘列があり、日本海となる。遺跡からは、幅五m前後・深さ一m前後の川跡が検出され、両側から、掘立柱建物が一五棟確認されており、建物の重複も認められる。大きいものでは、雨落ち溝を伴う、二間×五間の建物がある。この他道路遺構と考えられる、二本の平行した溝なども認められる。

遺物には、川跡から出土した多くの土器・木製品がある。土器は、須恵器・土師器を中心とする八世紀前半から九世紀後半にかけてのもので、遺構群もこの時期のものである。黒色土器も比較的多く、蓋付きの短頸壺などもある。その他、銅製と思われる帶金具も出土している。

木簡は、一九九九年度の試掘調査で一点、二〇〇〇年度の調査で前述の川跡から三点の計四点が出土した。墨書土器としては、港や船着き場をあらわす「津」三点が出土した他、「王」「得」「寺」などがある。

本遺跡付近には「船戸」（船津に通ず）の地名が存在する。また、本遺跡出土の墨書土器の中に「津」と記されたものがあることや川跡の存在から、当遺跡が「津」であったことは間違いない、川によつて潟に通じていたと考えられる。

- 8 木簡の釈文・内容
一一九九九年度試掘調査

(1) 「」

・「」

115×28×5 033

(1) は、上端左側を若干欠損するが、ほぼ完形の荷札木簡である。

二 一〇〇〇年度調査

(1) 「少目御館米五斗」

・「」

110×19×4 051

(2) 「不不不不

(128)×22×4 019

(1) は、頭部を山形に整形し、下端を尖らせた小型の荷札木簡である。表面の「少目御館米五斗」と裏面の「所進」の文言から、この米の荷札は、少目御館宛に送られた米の付札と解される。

荷札の付された米俵は、藏ノ坪遺跡から積み出し、他所へ漕送するものではなく、他所から、内水面を利用して船で運ばれてきたものと考えられ、この地に建てられていた「少目館」用の収納施設に納めた際に荷札がはずされ、旧河道に投棄されたのであろう。

米の性格は、「少目御館」を重視するならば、国司の公廨米と考えられる。天平勝宝七歳（七五五）の越前国の公廨米について記した「越前国雜物取納帳」（大日本古文書 四卷七六頁）によると、公廨米は各國司の館」とに収納されており、また「在津」ともあり、津に収納されていること也有つたことがわかる。



一(1)



二(1)

二(2)

この蔵ノ坪遺跡も、少目の公廐米を一時的に保管する施設と考えられ、「蔵ノ坪」の地名もこの施設の遺称かとも考えられる。このち少目館へ搬送したと推測される。少目館はこの遺跡の近くに存在したのではないかと想定できる。

(2)は、下端を欠損する。習書である。

以上の二点の他にも木簡の断片が出土しているが、糸読できない。

なお、糸読にあたっては、国立歴史民俗博物館の平川南氏、新潟大学の小林昌一氏・相沢央氏のご教示をいただいた。

9 関係文献

財新潟県埋蔵文化財調査事業団『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報 平成二二年度』(二〇〇一年)

(高橋 保)

| 頃価 | 一・四号 | 品切れ | 五・六号 | 三五〇〇円 |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 七・一二号 | 三八〇〇円 | 一三号 | 四三〇〇円 | |
| 一四・一五号 | 四五〇〇円 | 一六・二二号 | 五五〇〇円 | |
| 一冊 | 六〇〇円 | 二冊 | 八〇〇円 | 三冊 |
| 四冊 | 一一〇〇円 | 五冊 | 一〇〇〇円 | 一五〇〇円 |
| 一一・一〇冊 | 二〇〇〇円 | | | |

※個人購入の場合は代金前納です。代金と送料は郵便振替で〇一〇〇〇一六一一五二七 木簡学会までお送り下さい。

※大学・博物館など公的機関の場合は代金後納です。銀行振込か右の郵便振替でお願いします。

口座番号 第一勧業銀行西大寺出張所

普通預金 一一一〇三一五

口座名 木簡学会 佐藤宗諱(さとうそうじゅん)

連絡先 〒六三〇一八五七七 奈良市一条町二丁目九番一号

奈良文化財研究所

平城宮跡発掘調査部史料調査室 気付

木簡学会 電話 ○七四二一三四一三九三一 (内二三九)

『木簡研究』在庫状況のお知らせ

| 頃価 | 一・四号 | 品切れ | 五・六号 | 三五〇〇円 |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 七・一二号 | 三八〇〇円 | 一三号 | 四三〇〇円 | |
| 一四・一五号 | 四五〇〇円 | 一六・二二号 | 五五〇〇円 | |
| 一冊 | 六〇〇円 | 二冊 | 八〇〇円 | 三冊 |
| 四冊 | 一一〇〇円 | 五冊 | 一〇〇〇円 | 一五〇〇円 |
| 一一・一〇冊 | 二〇〇〇円 | | | |